



(出席者)
 伊東總吉
 田中 実
 堀 良慶
 佐々木征
 鈴木正道
 野原 宏
 小松富士男
 木村悦雄・正子
 鈴木忠男
 福田豊万
 薄井良昭
 伊藤英一
 和田孝明・幸子
 新井 博
 野口 勉
 秋山 功
 杉野和夫
 今井敬子
 福井 豊
 宇都宮義文
 金子茂夫
 平園賢一
 井澤尚子

あーと・わの会 (通称「わの会」)

第52回放談会

日時 2018年10月28日(日) 13時～16時

場所 ルノール巢鴨駅前店 会議室

出席者 (計25名)



第52回放談会(発表順)

出品者 伊東總吉さん



作家名	野田哲也
作品名	「日記 1994年4月21日」
材料・技法	木版・ シルクスクリーン
制作年	1994年
サイズ	83.0×65.5cm

コメント

私の20数点の野田哲也版画コレクションの中でNo355は昨年「パレット柏」の開所展出品されました。それ以外の作品として、静物を扱った力のこもった代表作の一つと考えます。熊本県不知火町地域の特産品 果物をまとめています。MOTアニュアル2003「おだやかな日々」(東京都現代美術館に展示された)

作家略歴 野田哲也 (のだ・てつや/1940年～)

熊本県生れ。1963年東京藝術大学院絵画研究科油絵専攻卒。65年同大学大学院絵画研究科油絵専攻修了。68年東京国際版画ビエンナーレ国際大賞を受賞。91年東京藝術大学教授。2014年大英博物館で半年間個展を開催。東京藝術大学名誉教授。

出品者 田中実さん



作家名	脇田 和
作品名	「鳥」
材料・技法	油彩
制作年	不詳
サイズ	14×9cm

コメント

バランスのとれた作品だと思っています。

作家略歴 脇田 和 (わきた・かず/1908～2005年)

東京に生れ。1923年渡欧。25～30年ベルリン国立美術学校卒。光風会会員。36年新制作派協会を結成、会員となる。55年日本国際美術展最優秀賞。70年東京藝術大学教授を退官。98年文化功労者。東京で没、97歳。

出品者 堀 良慶さん



作家名	内藤瑠子
作品名	「少女」
材料・技法	油彩・キャンバス
制作年	2007年
サイズ	29.5 × 21.0cm

コメント

内藤瑠子の作品は36点所蔵しています。
平成16年2,3月 柏わたくし美術館で山根康壮コレクション展を開催。一番、目を引かれた作家が内藤瑠子作品群です。もっとも描きたい対象を素直に描く、赤裸々な自己を隠すことなく表現されている。
神戸わたくし美術館2回。柏わたくし美術館1回 内藤横展開催

作家略歴 内藤瑠子（ないとう・ようこ/1985年～）

神奈川県生れ。2000年私立公文国際学園高等部入学、美術教師伊藤潤に学ぶ。長谷川利行、鬻光、恩地孝四郎などの作品に興味。中途退学。ギャラリー街路樹で個展。湯島・羽黒洞個展。04年羽黒洞の契約作家。湯島・羽黒洞中心に個展で発表。

出品者 佐々木 征さん



作家名	矢内清六
作品名	「柿図」
材料・技法	アクリル彩色＋鉛筆
制作年	不詳
サイズ	17.5 × 30.0cm

コメント

初めて目にしたとき、写真ではと思ったが、作品に近づいてみた結果、肉筆であることが分かり吃愕！

矢内は1935年福島市生まれで、吉井忠、久藤直江に師事、無所属で個展中心の活動をしている。現在は栃木市在住。過去にはアート・トップや月刊美術に取り上げられている。注目すべきは、須之内徹の現代画廊で1983～1987年まで連続して個展開催。以下も現代画廊の最後の個展を開催した。須之内は矢内の個展開催中に没している。

<作風>ヒューマンな味わいの画風の中にも、ピリッとしまった写実の厳しさが身上。

主な個展歴 1991年彩林堂画廊、2010～2015年フォルム画廊、2015年マスタ画廊、2018年マスタ画廊

作家略歴 矢内清六（やない・せいろく /1935年～） 福島市生れ。吉井忠、久藤直江に師事。無所属で個展中心に活動。1983～87年現代画廊（銀座）、91年彩林堂画廊、2010年～フォルム画廊（銀座）、マスタ画廊（豊前市）で個展。

出品者 鈴木正道さん



作家名	大沢康夫
作品名	はるのかおりー おだまき
材料・技法	鉛筆画
制作年	2005年
サイズ	15 × 11cm

コメント

朝日新聞「俳句・歌壇」欄でこの作品を見つけた。
(2005年、2月28日)

その後、大沢康夫点で求める。エロス作品の多い
中、ほのかな移り香漂う、この画に魅せられた。

作家略歴 大沢康夫(1939年～)大沢昌介の長男として東京で生まれる。
1962年多摩美大図案化卒業。1967年同大学大学院修了、デザイン科専任講師。1970年学園
紛争により、教職をはなれ、制作活動に専念。1984年鉛筆による作品を発表、以降、東京を
はじめ各所で鉛筆作品を中心に個展。現在に至る。1999年鉛筆画集「エロスコスモス」を美術
出版社より刊行。

出品者 野原 宏さん



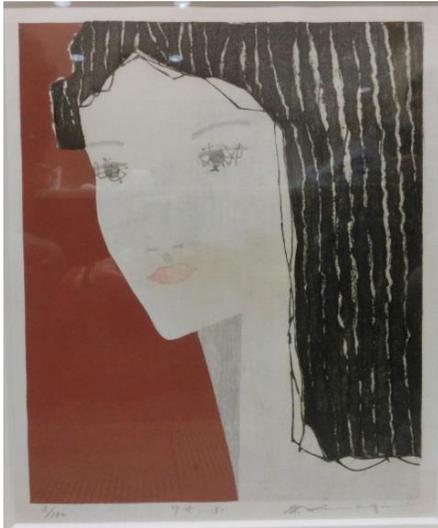
作家名	出井保勝
作品名	無題
材料・技法	紙 ペン 墨 アクリル絵具
制作年	1995年
サイズ	24.5 × 36cm

コメント 松山庭園美術館での個展で作
品に出会う。その後ほくさい美術館で出井さ
んと出会う。前向きな政策に対するお考えと、
コンピューターを利用した作品制作にも甘
味を受ける。コンピューター作品の前の作
品を見せてもらいコレクションした作品です。



作家略歴 出井保勝 (でい・やすかつ/1932年～) 宮崎生れ。金沢美術工芸大学
で油絵を学び、卒業後はフリーデザイナー、アートディレクター、美術雑誌、建築雑誌等の
出版社を経営。1990年絵画制作に専念。抽象絵画を制作。93、96年アート・ミュージアム
銀座個展中心に発表。2015年ほくさい美術館で出井保勝とコノキ・ミクオ 二人展開催。

出品者 小松富士夫さん



作家名	熊谷吾良
作品名	「少女」
材料・技法	木版画
制作年	不詳
サイズ	30×25cm

コメント
アトリエ出版社の美術雑誌「アトリエ」
特集号(木版画を始めるひとへ)の表紙
を飾った作品。

作家略歴 熊谷吾良(くまがい ごろう/1932年～)青森県生まれ。1955年武蔵野美術学校洋画科卒業。日本版画協会展、図画会展などに出品。1960年シェル美術賞展・I氏賞受賞。第4回東京ビエンナーレ展出品・著書「木版画を始める人へ」。

出品者 木村悦雄・正子さん



作家名	加州住盛平
作品名	鐙
材料・技法	漆 加賀象嵌(金沢鐙)
制作年	18世紀/江戸
サイズ	

江戸時代、加賀象嵌の系統には、刀剣に付属する一連の装そう剣けん金工とバグの鐙とがあって、全国に加賀の象嵌として名声を博していたのは鐙であった。



作家名	木下 晋
作品名	木下晋自画像
材料・技法	油彩画
制作年	1975年
サイズ	30号

コメント 「作家、作品にとっての終の棲家探し」今回の作品2点は、既に手元がない。石川県立美術館への寄贈作品として、既に今年度の寄贈委員会を通して石川県美の収蔵庫にある。作家、作品にとって終の棲家に相応しいところは、との思いを成し遂げることをライフワークにすべく、現在50点を目標に美術館への寄贈の実現に努めている。木下晋自画像は、木下晋氏が現代画廊で初めて個展を開催した際に出品した記念すべき作品であり、今後木下晋氏の顕彰に欠かせないものとして所在を安定させることが出来た。「燈」は、加賀象嵌の逸品であり、前田家ゆかりの地方において欠かせない歴史的作品である。現在石川県立美術館には、同作家による「燈」が収蔵されており、更なるコレクションの厚みを増す作品として、コレクターと美術館の思い、強いては、作家、作品の思いが重なり、寄贈のはこびとなった。

作家略歴 木下 晋（きのした・すすむ/1947年～）
富山市生れ。1963年自由美術協会展にクレヨン画出品最年少で入選。81年後に鉛筆画の第一人者と言われる鉛筆画を始める。現代画廊で個展。金沢美術工芸学校専任教授。名古屋芸術大学客員教授。2007年梅野記念絵画館、12年平塚市美術館で個展。

出品者 鈴木忠男さん



作家名	小野忠重
作品名	「川」
材料・技法	木版画(陰刻法)
制作年	不明
サイズ	12.8×22cm

コメント
90年、美術ジャーナル個展で買った。(5万円)大きい作品が多いが、小品なので手にとれる。

小名木河沿いに住んでいるが、この景色に近いので選んだ覚えがある。「新版画」については山田書店の2Fガラスケースに13.4冊そろいが130万円位であり、ボーナスと月給をもって冬、行ったらそれが無くなっていたという、残念無念な思い出があります。悲しい思い出がある。谷中・藤牧展(神奈川近美)の頃

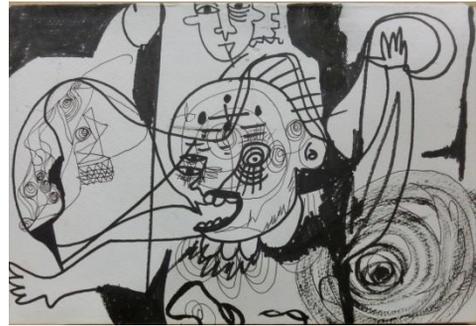
作家略歴 小野忠重（おの・ただしげ/1909～1990年）東京生れ。1927年早稲田実業学校卒。本郷洋画研究所に学。29～33年プロレタリア美術展に出品。32年日本版画協会展に出品。32年新版画集団を創立、37年新版画集団を改組し造型版画協会創立、主宰。41年法政大学高等師範部国語漢文科卒。46美術出版社で「洋画技法講座」「美術手帳」の編集。戦後は日本美術会の委員。48年の同会アンデパンダン展毎回出品し、庶民の生活に密着した題材を用いて制作を続け、一貫して版画の大衆化をめざした。「木版陰刻」手法により独自の作風。63～77年東京芸術大学絵画科版画研究室講師。79年紫綬褒章を受章。88年東京芸術大学芸術資料館で「小野忠重の版画と素描」展が開催。版画史、版画の技法に関する著書も多い。東京で没、81歳。

出品者 福田豊万さん



作家名	大谷都民版
作品名	「無題」
材料・技法	アクリル
制作年	2015年
サイズ	F3号

コメント 障害(幻聴、幻視)のある作家であるが、働きながら絵を描いている。



作家略歴 大谷都民版(渡辺翔太)1987年生まれ。16歳から絵を描いている。現実にはない声やイメージを、色を使うことで彼が感じたものを現実に見えるものにする。それは彼が彼自身に起こっていることを記録し見つめようとしている。

出品者 薄井良昭さん



作家名	須田 寿
作品名	「男の顔」
材料・技法	油彩
制作年	不明
サイズ	サムホール

コメント

1980年以降の作品と推測。

生涯、絵画道を貫き、その作風も変遷した画家である。画家としての評価・力量は別として、良き人生を全うした画家と云える。

作家略歴 須田 寿 (すだ・ひさし/1906~2005年)

東京生れ。1931年東京美術学校西洋画科卒。官展に出品。49年立軌会創立に参加。54年渡欧。65年武蔵野美術大学教授。84年芸術選奨文部大臣賞を受賞。東京で没、98歳。

出品者 伊藤英一さん



作家名	沢田教一
作品名	「安全への逃避」「無題」
材料・技法	写真
制作年	不詳
サイズ	A4サイズ

コメント
海外サイトで購入。
報道写真で歴史がしのべ
れます。
ベトナム戦争を切り取っ
た有名な写真。
UPI倒産時に流出したの
ではないかと推測。



作家略歴 沢田教一（さわだ きょういち/193～1970年）青森市生れ。1954年青森県立青森高等学校卒業。日本の報道写真家。ベトナム戦争を撮影した『安全への逃避』でハーグ第9回世界報道写真コンテスト大賞、アメリカ海外記者クラブ賞、ピューリッツァー賞を受賞した。

出品者 和田孝明・幸子さん



作家名	木村利三郎
作品名	「枯れたひまわり」
材料・技法	油彩・キャンバス
制作年	1963年
サイズ	31.8×41.0cm



コメント 木村利三郎は、世界から芸術家の集まるニューヨークで活躍した画家である。「都市の構造と崩壊」をテーマに作品を制作し続けた。都市の悲劇を予知するようなものや、その先にある発展をお期待させる作品がある。本作品の裏面には、あじさいの花

作家略歴 木村利三郎（きむら・りさぶろう/1924～2014年）横須賀市生れ。1947年神奈川師範卒。54年法政大学哲学科卒。64年渡米。NYで、都市の崩壊と再生、宇宙をテーマに亡くなるまで制作活動。NYで没、90歳。ニューヨーク近代美術館、ブルックリン美術館、IBM本社、東京国立近代美術館、東京藝術大学、などに収蔵。14年没、90歳。

出品者 新井 博さん



作家名	清宮 質文
作品名	「街」
材料・技法	水彩
制作年	1970年
サイズ	26×24cm

コメント
水彩作品は少ないがたまたま画廊で見つけた。
月のあかりが印象的。

作家略歴 清宮質文（せいみや・なおぶみ/1917～1991年）
東京生れ。父は画家の清宮彬。同舟舎に学ぶ。東京美術学校油画科卒。慶應義塾工業学校の美術教師を務める。1957年春陽会会員。サエグサ画廊・南天子画廊・フォルム画廊等で個展。木版画、ガラス絵等を制作。東京で没、73歳。

出品者 野口 勉さん

作家名	松下紀久雄
作品名	「墨彩むかし絵 3点」
材料・技法	墨彩・紙
制作年	不明



サイズ53×42cm



サイズ45.5×38cm



サイズ45.5×53cm

コメント 墨絵の温もりと愛あふれる人々の描写に熱い情を感じます。
観る側が何かを感じ、何かを学ぶ、そのような視点が見出せる作品は貴重だと常々思っていますが。

作家略歴 松下紀久雄（まつした・きくお/1918～2010年）東京生れ。画家、漫画家、作家。太平洋画塾卒。1952年『朝日新聞』に「東京むかしむかし」(イラスト)を連載。63年『朝日新聞多摩版』に「武蔵野むかしむかし」を連載。イラスト・挿絵。展覧会60回。作家の佐賀潜は実兄。87年奥多摩に「松下紀久雄むかし絵」美術館開館。2010年没、102歳。墨彩

出品者 秋山 功さん



作家名	鬼頭 曄
作品名	「Nirvâna」
材料・技法	油彩・鉛筆・キャンバス
制作年	1992年
サイズ	P4号

コメント 今、鬼頭曄の名前を聞いて、わかる人がどれだけいるだろうか。あれだけの才能とすぐれた実績を遺しながら、殆ど忘れられかけているというのが実状である。

鬼頭は、1948年東京美術学校日本画を卒業しまだ戦争の傷跡が残る52年にフランス政府保護留学生として渡仏した。以後、17年間に及ぶ滞在生活の中で、契約画廊を持ち、美術展で受賞を重ね、多くの美術館にその作品が収蔵されるなど、周囲がうらやむような実績を遺している。しかし、帰朝したことで長期の滞仏による日本での生活への不適應や日本美術界での正当な評価を受けられない苛立ちなどから、不遇のまま94年に69歳で逝去した。

今回のこの作品は、鬼頭が亡くなった年の個展に出品されたものである。日本語でいう「涅槃」と題されたこの作品は、画面全体が黄褐色で統一され、蓮の花を描くことで永遠の世界が暗示される。描かれた人物は、自らの姿を投影したものか。顔面に緑色が使われていることで死者を思わせるが、口元はぎゅっと閉じ、目はしっかりと見開いているのに涙を流している。涅槃にあってもなお安らぎを得ず、悟りを得ない己の姿を想像する作者の有様に一層の悲しみを感じる。

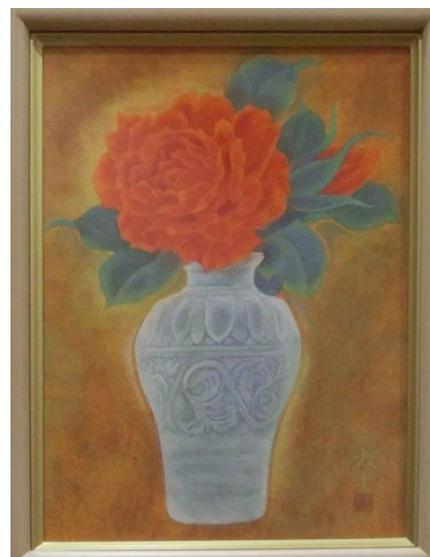
作家略歴 鬼頭 曄（きとう・あきら/1925～1994年）

東京生れ。東京美術学校日本画科卒。自由美術家協会会員。1952年仏政府保護留学生。53年パリ国立美術学校入学。57年アマテュール・ダール賞、抽象絵画スイス賞。74年自由美術協会自由美術賞。個展中心に発表。94年没、69歳。

出品者 杉野和夫さん

作家名	藤島大千
作品名	「白磁と薔薇」
材料・技法	雲肌麻紙に岩絵の具
制作年	2013年
サイズ	4号

コメント 一輪の赤い薔薇の情熱がまさに迫ってくるようです。



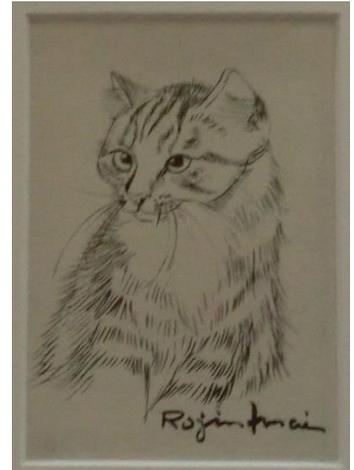
作家略歴 藤島大千（ふじしま・だいせん/1965年～）東京生れ。1988年高山辰雄に師事。91年～入選12回。97年日展特選、02年日展特選。2003年から無鑑査出品。上野松坂屋で個展。15年日展準会員、16年日展会員。

出品者 今井敬子さん



作家名	今井ロヂン
作品名	「女性像」
材料・技法	油彩
制作年	1957年ころ
サイズ	サムホール

「ねこ」/墨



コメント Fujita Tsuguharu の教えを守った作品。
お披露目はじめての作品。

作家略歴 今井ロヂン（いまい・ろぢん/1909～1994年）
満州生れ。太平洋美術学校本科油絵科修了。1941～49年藤田嗣治に師事。中央公論社画廊、スルガ台画廊で個展。70年二科会会員。75年二科会員努力賞。94年没、85歳。

出品者 福井 豊さん



作家名	長谷川 潔
作品名	「コップの中の野の花」春・秋
材料・技法	ビュラン彫り エングレーヴィング銅板 画凹版・紙
制作年	1951年彫版
サイズ	28.7×23.2 cm(版寸)

春

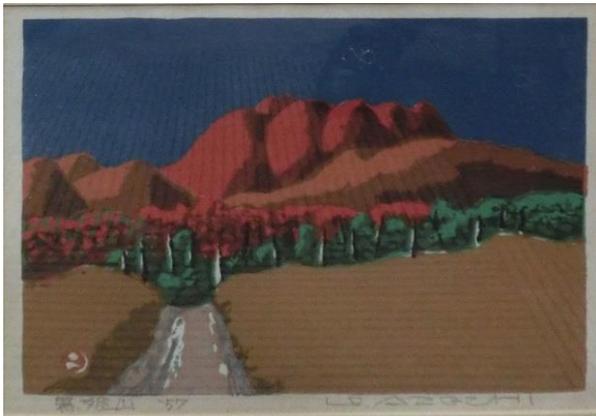
秋



コメント ルーヴル美術館カルコグラフィー工房所蔵原版使用の後刷り。版上サイン、余白下部に同館工房エンボス印。同館所蔵原版は14000枚。2008年以降はパリ北部サン・ドニにある工房で原版刷り。作品は同館ショップの他、東京銀座でも購入可能。カルコグラフィーは本来、銅版画凹版を意味する言葉だが1950年代以降、このルーヴルの原版コレクション、その工房で刷られた版画そのものを意味する固有名詞として広く浸透し認識される。1974年新宿伊勢丹で仏国外初となる200余点のカルコグラフィー展が開催された。

作家略歴 長谷川潔（はせがわ・きよし/1891～1980年）
横浜市生れ。葵橋洋画研究所、本郷洋画研究所に学ぶ。1913年板目木版画、銅版画を制作。18年渡仏、マニエール・ノワールを復興する。28年春陽会会員。31年日本版画家協会創立会員。66年フランス文化勲章。80年京都国立近代美術館で回顧展、パリで没、89歳。

出品者 宇都宮義文さん



作家名	畦地梅太郎
作品名	「黒姫山」
材料・技法	木版
制作年	1957年
サイズ	18×24cm

コメント 小生幼少期から曾ての養家の多芸多才の趣味親父が知人である作家の依頼で作品を売り捌いていた。就職先ของบริษัท(農業機械メーカー)創業者と作家が同じ村出身者でその村の「道の駅」の一棟がこの作家コーナーと創業者コーナーの記念館となっている。等からご縁のある作家。当会の大先達会員の小松教授が等作家の作品を先行発表し先を越された！！クチオシイ！！

作家略歴 畦地梅太郎 (あぜち・うめたろう/1902～1999年)

愛媛県生れ。1920年上京、26年内閣印刷局活版部入局。27年平塚運一を訪ねて指導を受ける。32年日本版画協会会員。44～71年国画会会員。49年日本山岳協会会員。73年愛媛県美術館個展。91年町田市立国際版画美術館個展。山岳風景や山男をモチーフにした“山の版画家”96年没、96歳。

出品者 金子茂夫さん



作家名	山本 鼎
作品名	「静物」
材料・技法	油彩・板
制作年	1918年
サイズ	24×33cm

コメント 「鼎には、力作や代表作といわれる作品の数は少ないが、小品には妙に魅力があり、画品のある作品が多い。」(小崎軍司『山本鼎評伝』)に納得！

作家略歴 山本 鼎 (やまもと・かなえ/1882～1946年)

愛知県生れ。1906年東京美術学校西洋画科選科卒。07年同人誌「方寸」創刊。12～16年滞欧。18年日本創作版画協会を創立。19年日本農民美術練習所を開設。22～35年春陽会創立会員。43年春陽会に復帰。上田市で没、63歳。

出品者 平園賢一さん



作家名	不明
作品名	仮題「少年像」
材料・技法	油彩・キャンバス
制作年	不明
サイズ	53.3 × 43.0cm

コメント 明治末から大正期に描かれたと思われる少年像。旧蔵者の話では宮家ゆかりの所から出ており、皇族あるいはその関係者の可能性あり。作者は岡田三郎助などが考えられるが、今後の調査が必要。

以上

発行	: あ一と・わの会
発行日	: 平成30年10月吉日
編集	: 実行委員 あ一と・わの会放談会チーム 司会進行 金子茂夫 写真、編集(デザイン、フォーマット、字体) 井澤尚子
連絡先	: 事務局(堀 良慶) 〒277-0871 柏市若柴1-358 TEL 04-7134-8293 ryokeihori@yahoo.co.jp